

# 姥堂小学校だより



平成29年度第4号 平成29年5月25日(木) 発行責任者：遠藤 幸栄 <田植えの様子から>

## PTA奉仕活動 有難うございました

13日午前6時よりPTA親子奉仕活動が行われました。前日の夕方に草刈り作業に来られた方も居られました。中学校の練習試合が重なったのだとか。保護者の皆様の誠実さに支えられて本校があることを改めて実感しました。小雨交じりの朝でしたので、子どもたちには校舎内で窓ふきをしてもらいました。運動会練習の疲れがたまる時季、体調の管理を優先しました。



< 小雨の中、綺麗に除草して頂きました H29.5.13 >

## 快晴の運動会に笑顔！笑顔！！

20日(土)、快晴の空の下で今年も運動会が開催できました。44名すべての子どもたちが、毎日、毎日、練習に練習を重ねているのを、お日様がニコニコしながら見守っているかのような様子でした。

「仲間を信じ、固い絆で勝利を目指せ！」今年も5・6年生が、素晴らしいスローガンを考えました。紅組も白組も「なかよくたくましく」目標に向かって、みんなで力を合わせて、係の仕事も含めて、最後までやり抜いた一日でした。応援合戦は紅組、全校リレーも紅組が勝ちましたが、総合成績は、120:114で白組の優勝でした。紅組の子どもたちの中には「6年生を勝たせてあげたかった」と涙を浮かべる児童もありました。勝っても負けても最高の運動会ができたと思います。

今年も例年にも増して多くの来賓の皆様にご来校頂きました。ご家族の皆様におかれましても農作業のお忙しい中をご参加頂き、たくさんの声援をおくっていただきました。ありがとうございました。

子どもたちの活躍はまだまだ続きます。今後とも、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



< 伝統の姥堂小学校鼓笛隊 堂々と胸を張って >



< 出場種目は勿論、係も応援も一生懸命 H29.5.20 >

「土のふとん」でニ・ハン・ハンをつく

いま No.1275  
子どもたちは  
田んぼに学ぶ ③

福島県の喜多方市立姥堂うばどう小学校の大谷千尋さん(9)には、「農業科」の学習で育てたニンジンの畑が「土のふとん」に見えた。ふかふかの土から栄養を

もらって、どんどん葉っぱが伸びる。暑い中での水やりは大変だけど、昨年8月下旬に土から思いつき引っこ抜いたら、お店で売っているような大きなニンジンに育っていた。

持って帰ると、母親の里枝さん(37)が「おじいちゃんを作ったのよりも大きいね」。ニンジン

は、必ず食事に入れてもらう大好きな野菜。みそ汁に入れると、柔らかくて甘くて、おいしかった。でも何よりもおじい

ちゃん、おばあちゃんと一緒に食べられたのがうれしかった。大谷さんがこの経験を書いた作文は昨年、喜多方市教育委員会の「農業科」の作文コンクールで大賞に選ばれた。里枝さんも「子どもの視点は面白いなと感心した」と笑う。

2009年度に始まったコンクールは、児童が一年を通して作物を育てる農業科の「成果」を検証することが狙いだ。農業科の目的は「心の豊かさ」「主

昨日から恵みの雨が降り出し、1・2年生は、手代木洋次先生のご指導の下、カボチャとサツマイモ、ポップコーンとミニトマトの苗を植えました。また、5・6年生は、酒井文雄先生のご指導で、スイカとキュウリ、トウモロコシを植え、今日は、3・4年生が中川孝雄先生のご指導を受けました。

五感を使い体験から学ぶ農業科の学習は、子どもたちに豊かな感性を育みます。豊かな感性は、普段の生活の中での細かな違いや共通点を気かせ、人や自然を優しく思いやる心を育てます。右は朝日新聞に掲載された大谷千尋さんの作文を紹介する記事。子どもたちの作文は、どの子も素敵な内容で農業科支援員の皆さんの思いに答え、子どもたちが健やかに成長している様子に溢れています(感謝)。



体性」「社会性」を育てることだが、「取り組みの成果を具体的に示すのは難しい」ことから始まった。現在は、全17市立小学校の3〜6年生のほぼ全員に

ニンジン収穫した大谷千尋さん(9)の去年の作文は、農業科市教委や校長会などが審査している。

あたる約1500人が応募し、市立豊川小4年の折笠華子さん(9)の去年の作文は、農業科で枝豆と納豆をつくと先生に言われたときに「ああ。なんてこった」と思ったことから始まる。土を掘れば、ミミズやナメクジといった大嫌いな虫が出てくるからだ。でも、収穫して食べるときには気持ちが変わって

いた。「先生がむしさんが、いっぱい出て来るほどおいしんだよ。」と教えてくれました。なるほど、えだ豆は虫の気持ち悪さを忘れるほど、おいしい味でした」

小学校の教諭は、農業科を題材にした作文の時間は、普段と違うと感じている。姥堂小で大谷さんの担任を務める豊野創平さん(45)は「体験している分だけ、表現が生き生きする。触った土の感触とか、畑の景色とかも上手に書いて、考え込む子が少ないですね」と話す。

(土居新平)

「小学校の運動会を地区の運動会と兼ねて行っ  
てはどうか」という声が聞こえてきます。しかし、今年も例年通り、本校独自の運動会を開催しました。これは、春に学級担任と子どもたちがこれ程まで心をついにできる教育の手段が他にあるとは思えないこと。また、地区の運動会は保護者世代が運営し、地域コミュニティーの絆をつなぐ鍵となっており、この地域の人の力を発揮する場を無くしては、姥堂の未来の為には成らないと考えるからです。今日も子どもたちの元気な声が地域にこだましています。5人で力を合わせて鼓笛隊、応援合戦の指揮を執り、5年生の力を借りながら独自の運動会の運営をやり切った6年生が、また、目の前でやんちゃに振る舞い、担任の先生を少し多めに困らせている1年生こそが、将来地域を担う人材に成長します。その日が来るのがとても楽しみです。



< 対面式・畝作りの前日、堆肥散らしを行いました。最後は道具を川で洗って終了です。 H29. 5. 10 >



< 5年生は理科や社会で稲の勉強をします。そこで、田植えを前に育苗の観察です。見事な苗代です。 H29. 5. 2 >



< ちょうど雨が止み、外で農業科支援員の先生方との対面式、耕運、そして畝作りができました。 H29. 5. 11 >



< 今年も入岡正さんの田んぼで田植えをさせていただきました。初めての5年生はワクワクドキドキ！ H29.5.18 >